

特別寄稿

エリザベス・トリバー

経済の発展にともなう、世界はあつ意味で
貧しくなる一方だ。人口は子え子のに、資源
は枯渇し、自然は開発によつて喰ひ荒らされ
る。毎に、多くの動植物が減んで行く。これ
を知らぬから人間はますます貪欲になり、よ
り多くの財貨を求め、さらにほまた少しでと
ちとえんの富を手に入れようと狂奔する。若
い人達かこうして実情に一向に關心を示そう
としないことはきわめて嘆かわしいことだ。
中には關心を持つ人もいゝが、それは全く中
に誤程度のものだ。では実際にこうした傾向
に歯止めをかけるために何か行動を起こすか
といへばそうでもない。悲惨な未来はとりも
なおさず、自分達の未来でもあまといふのに

棲み家を追われだした野生動物がどんどん減っ
て行くのに対し、ペットなどの“飼われ動物”
は犬、猫を中心に急速に子えていゝ。人
は家を買うのに充分な金を蓄えようと、次には
犬を欲しがる。それと非常に高価な血統書付